

令和3年 お茶づくり技術情報 (No.6)

2021年7月30日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 今後の管理

1) 土壌・肥料

■土壌 EC 値の動き

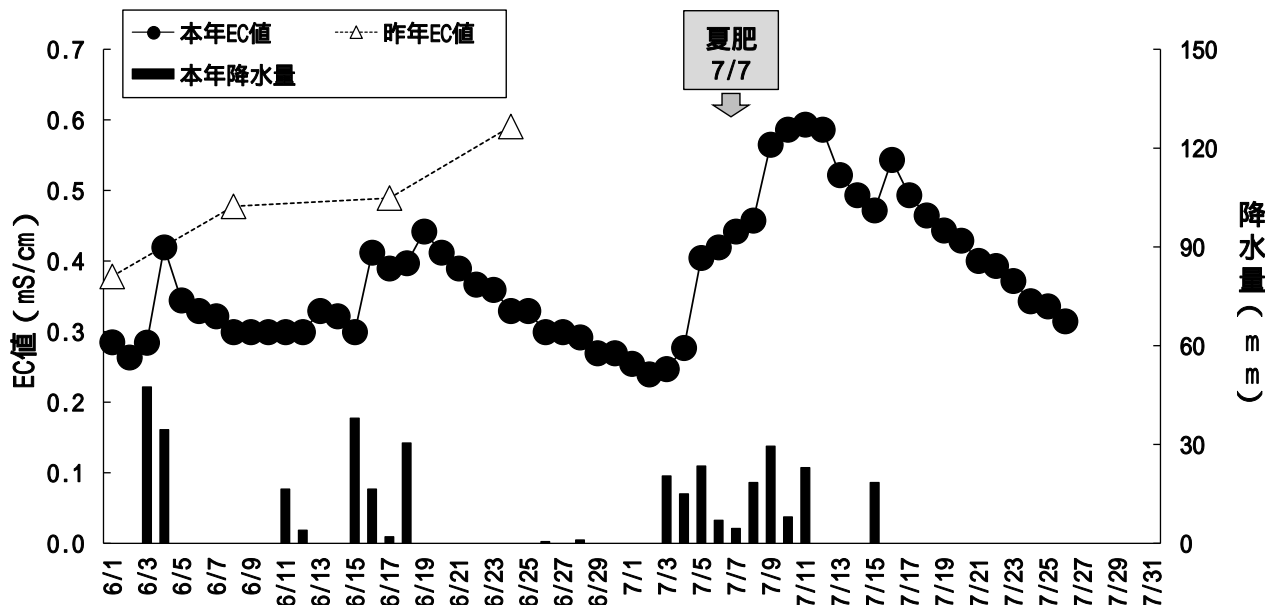


図 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注1) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す
注2) 昨年の土壌 EC 値は、実測値である

- (1) 6月は、まとまった降雨後に土壌 EC 値は一時上昇したものの、その後降雨が続かなかったことで前年より低く推移した。
- (2) 7月は、上旬に断続的な降雨があったことで土壌 EC 値が徐々に上昇した。その後、中旬以降は降雨がほとんどなく、土壌 EC 値は減少傾向となっている。

■苦土石灰の施用

茶樹の生育に適した土壌 pH は 4.0~5.0 であるが、県内茶園の中には pH4.0 を下回る茶園が多く見られる。そのため、苦土石灰等の土壌改良材の投入による酸度矯正が必要である。また、苦土石灰は苦土の補給も兼ねることができ有効である。

(1) 施用時期

7月下旬~8月中旬 (秋肥施用前)

(2) 投入量

目安として 100kg/10a (苦土石灰の場合)

土壌や用いる土壌改良資材の種類によって投入量が異なるため、土壌診断結果に基づき、決定する。

(3) 注意点

石灰資材とアンモニア態窒素を含む窒素肥料を十分な間隔を空けずに施用すると、アンモニアがガス化、揮散することがある。窒素成分が無駄になるだけでなく根を痛めることがあるため、窒素肥料施用の前後2週間程度は間隔をあける。

2) 深耕

茶園共進会における茶園の土壌硬度は年々高くなっており、根の伸長を促進するためにも深耕による土壌環境の改善が重要である。

7月1日～現在までの降水量は平年比47%と少なくなっている。今後の気象状況を注視し、深耕実施の有無を慎重に判断する。

特に来年度中切り更新を計画している園や幼木園を中心に行うことで、深耕の効果がより高くなる。また、深耕前に堆肥等の有機物を施用することで深耕効果の持続が期待される。

(1) 実施時期

8月中旬～9月上旬（山間部は早め（～8月下旬）に行う）

(2) 注意点

深耕での断根による生育への影響を考慮し、樹勢低下が著しい場合や高温干ばつ時には行わない。

3) 干ばつ対策

夏季は来年一番茶の母枝となる芽の生育期となっており、この時期に干ばつの影響を受けると、翌年一番茶の減収につながるため、対策が必要である。

(1) 敷きわら、敷き草

特に幼木園で土壌表面からの水分の蒸発が大きいため、敷きわらや敷き草で蒸発および地温上昇防止に努める。

(2) かん水

水利の良い圃場では、10aあたり10tを目安にかん水を行う（特に幼木園では土壌表面からの蒸発が大きいため注意する）。水量が限られる場合は、夕方に葉水の散布を行う。

【かん水のタイミングの目安】

・5mm以上の雨が降らない期間が10～15日続いた場合

(3) 整枝

干ばつ時に整枝を行うと茶樹への負担が大きいため、整枝は控える。

(4) 施肥・深耕

干ばつ時は根が弱っており、肥料も溶けにくいいため、施肥は十分な降雨があってから実施する。深耕についても、乾燥の助長や断根等マイナス面が大きいため降雨後に行う。

4) 台風対策

台風が接近した場合、大雨による水害、強風による茶樹の物理的損傷や潮風害を受ける可能性があるため注意が必要である。強風によって葉ずれを起こした場合、傷口から赤焼病等の病気が発生しやすくなる。

(1) 事前対策

- ・大雨による土壌流亡を防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検、整備する。
- ・防風ネットを設置する。
- ・うね間にソルゴー等を間作する。
- ・潮風害対応のため、事前に散水用の真水を確保しておく。

(2) 事後対策

- ・強風で葉ずれした茶園では、できるだけ早く銅水和剤の散布を行う。
- ・幼木園では、マルチのはがれや株の浮き上がりを点検し、元の状態に戻す。
株が動いた場合は、早めに土寄せを行い、敷きわら等で地際部や根を保護する。
- ・先枯れ、枝枯れ等、被害が大きい場合は樹の回復後に被害部の直下でせん除する。
- ・被害園では樹勢の回復を最優先とし、整枝や施肥は控える。
- ・潮風害の発生が懸念される茶園、特に海岸線に近い茶園では台風通過後速やかに真水を散水し、付着した塩分を洗い流す。

5) 病害虫防除

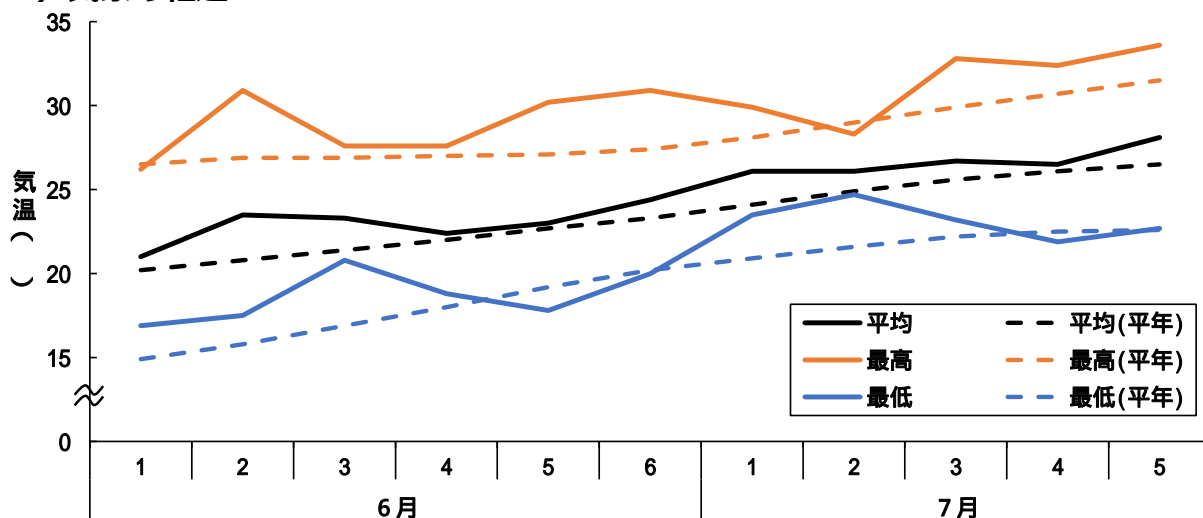
病害虫防除については、『令和3年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。

URL : <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321964/index.html>

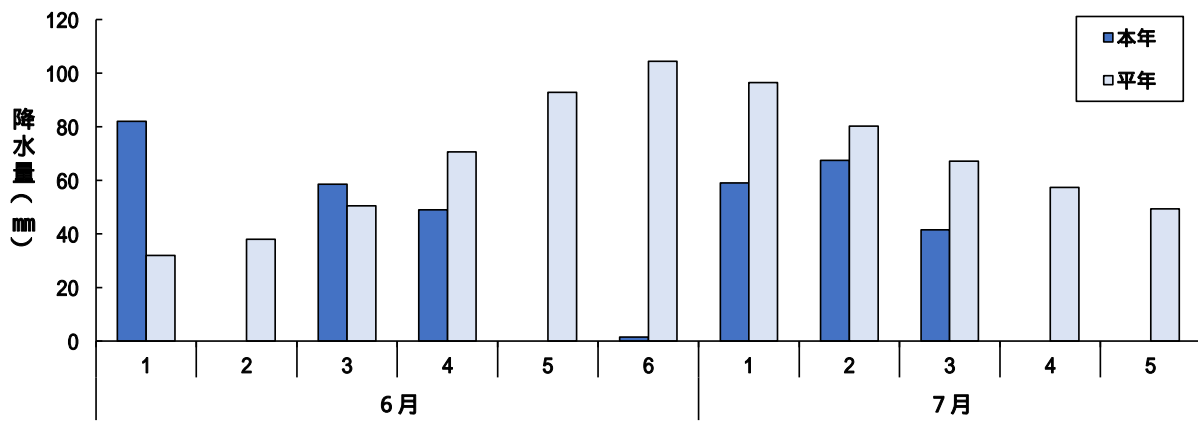


2. 気象

1) 気象の経過



- (1) 6、7月の平均気温は、6月第1～3半旬および6月第6半旬～7月第3半旬と第5半旬で平年より高く推移し、6月4、5半旬および7月第4半旬は平年並であった。



(1) 6、7月の降水量は、6月第1半旬のみ平年より多かったが、期間を通して平年と比べて降水量は少なく、6月の降水量は平年比49%、7月(1~26日)の降水量は同47%となっている。

2) 今後の気象の見通し

■ 1か月予報 (気象庁、2021年7月29日発表)

向こう1か月の天候の見通し

福岡管区气象台

九州北部地方 (7月31日~8月30日)

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
九州北部地方	低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み

- (1) 向こう1か月の平均気温および日照時間は、ほぼ平年並となる見込み。
 (2) 向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並となる見込みだが、期間のはじめ(7/31~8/6)はかなり少ない状態が続く見込み。